

『目標』

- ◆住み良いまちづくり
- ◆環境の浄化運動
- ◆あいさつと親切運動

《編集・発行》

西根地区社会福祉協議会

にしね福祉



小さなサロンの 復活を願って

西根地区社会福祉協議会
会長 小山 三枝子

五月八日からコロナが五類になり、マスク着用も個人の判断に委ねられました。二〇二〇年一月から始まった三年にわたる自粛生活も一段落というところです。この三年間を振り返ってみますと、様々な場面において人と人との交流が制限され、生活様式にも大きな変化をもたらしています。元に戻るには、もう少し時間が必要かもしれません。そんな中、この二月の地区社協の研修会「これからの地域づくり」においてお聞きしたお話が頭に浮かびます。全国コミュニケーションサポートセンター代表の池田昌弘氏によると、今の時代だからこそ公的なサロンだけでなく、自分たちの手で小さなサロン、集まりをつくっていくことが大切だということでした。隣近所同士が集まってのお茶飲み会とか農作業の合間の合同休憩タイム、散歩途中の立ち話など、コロナ前にやっていたことを復活させようというのです。

私も、四月初め、お悔やみの帰りにご近所さんと日暮れ茶を飲む機会がありました。ときどき顔は合わせてもなかなかおしゃべりをする機会がなくなっていたので、本当に久しぶりのお茶飲み会となりました。今までほとんど話す場がなかっただけに、次々と話が出て、あつという間に時

間が過ぎました。皆さんと別れてから、ほんわかとした温かい気持ち快く広がり、ご近所の結びつきを感じたひとときでした。

これからさくらんぼで忙しくなる時期ですが、作業を通しての集まりも小さなサロンになると思います。短時間でもいいので、小さなサロンを手作りしてほしいと願っています。

西根地区社会福祉協議会としては、前年度に引き続き温かく住みやすい福祉の町づくりをめざしていきます。そのために、研修会を開催し、実践につなげていけるように努めます。地域の協力で関わり合いを広げていくことが、コロナが収まりつつある今大切にしていきたいことです。高齢者一人暮らしの集いなどは、回数や内容を工夫して取り組んでいきます。また、西根地区独自の活動である友愛活動を継続して、寝たきり高齢者の方々などに対して安否確認を兼ねての声掛け運動を推進していきます。

今後とも市社会福祉協議会、地域福祉推進員の方々と連携して、地域福祉活動を推進してまいります。今年度は、見守り活動を高齢者だけでなく子どもたちや障害のある方々にも広げて行く方針です。安心・安全な暮らしができ、人々の交流の場としての手作りサロンが増えていきますように、地域の皆さんの更なるご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

